

林木遺伝資源情報

第13号 - 1 2008.3

独立行政法人 森林総合研究所林木育種センター

林木遺伝資源保存林シリーズ No.15

コナラ、クヌギ、クリの林木遺伝資源保存林

森林総合研究所林木育種センター 遺伝資源部 久保田 正裕

1 はじめに

コナラ(*Quercus serrata* Thunb. ex Murray)は、ミズナラやクヌギと同じブナ科コナラ属の落葉高木で、北海道、本州、四国、九州の温帯下部から暖帯にかけて広く分布し、関東、中部、近畿地方の暖帯では、二次林の優占種の一つとなっています。コナラは伐採すると容易に萌芽するので、かつては薪炭材や水田の緑肥として重要な樹種でしたが、現在はシイタケ栽培のほだ木として利用されています。

クヌギ(*Q. actissima* Carruthers)は、日本、朝鮮、中国、インドシナ半島からヒマラヤにかけて広い地域に分布しています。日本では本州の岩手県・山形県以南、四国、九州、南西諸島の山地、丘陵地に普通に見られます。かつて薪炭材として、現在はシイタケ栽培のほだ木として利用されています。

クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)は、ブナ科クリ属の落葉高木で、日本に自生する唯一のクリ属の樹種です。北海道の石狩・日高以南、本州、四国、九州の温帯から暖帯にわたって広く分布し、朝鮮半島中南部にも見られます。日本では果実を食用とするほか、材は耐朽性に優れ、古来より家の土台や枕木などに用いられました。また、コナラやクヌギと同様にシイタケ栽培のほだ木としても利用されます。

これら3樹種は林業用として重要であり、コナラ、クヌギは関東、関西、九州育種基本区においてシイタケ原木精英樹候補木が、クリは関西育種基本区において広葉樹優良形質候補木がそれぞれ選抜、保存されています。遺伝資源としても今後は天然資源の枯渇も危惧されることから、林木遺伝資源保存林等における遺伝資源の保存が重要と思われます。

2 林木遺伝資源保存林の現況

3樹種の林木遺伝資源保存林について、設定箇所を図-1に、育種基本区別森林管理局別の設定箇所数と面積を表-1に示しました。3樹種合わせて16箇所が設定されています。

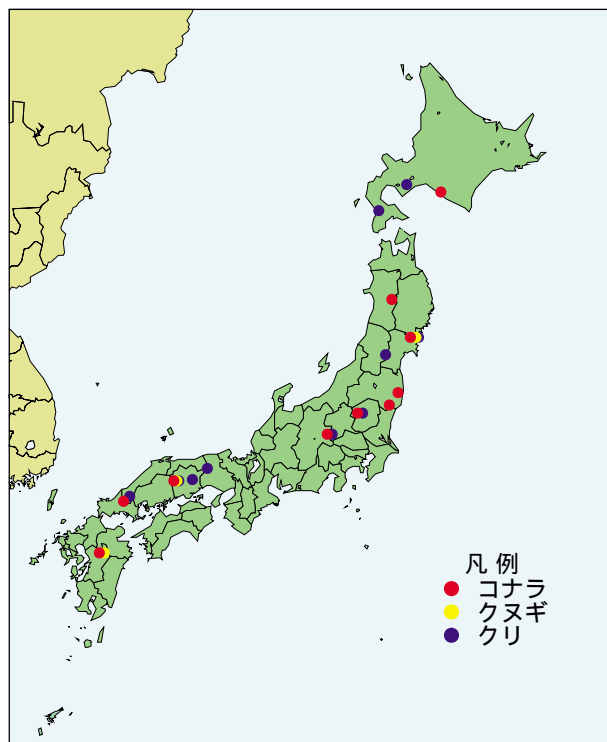


図-1 コナラ、クヌギ、クリの林木遺伝資源保存林位置図

表-1 コナラ、クヌギ、クリの林木遺伝資源保存林の設定箇所数と面積

育種基本区	森林管理局	コナラ		クヌギ		クリ	
		箇所数	面積(ha)	箇所数	面積(ha)	箇所数	面積(ha)
北海道	北海道森林管理局	1	10.0			2	43.6
東北	東北森林管理局	2	14.9	1	9.1	2	21.1
関東	関東森林管理局	3	44.0			1	5.0
	中部森林管理局	1	13.0			1	13.0
	小計	4	57.0			2	18.0
関西	近畿中国森林管理局	2	59.8	1	9.4	4	11.8
九州	九州森林管理局	1	77.6	1	77.6		
計		10	219.3	3	96.1	10	116.5
林木遺伝資源保存林全体に占める割合		3.1%	2.4%	0.9%	1.0%	3.1%	1.3%

注) 1箇所でも2樹種または3樹種を保存対象とする林木遺伝資源保存林があるため、合計は16箇所となる。

【お知らせ】 林木育種センターでは、林木遺伝資源を試験研究用に種子、花粉、穂木、苗木などで配布しています。厳密に品種・系統が管理されており、皆様の研究材料として最適です。価格は1点あたり消費税込で3,349円です。詳しい内容や入手方法につきましては、本誌裏面に記載のホームページをご覧ください。

3 コナラ、クヌギ、クリの代表的な林木遺伝資源保存林

代表的な林木遺伝資源保存林（各林分のデータは昭和63～平成2年に調査したもの）を紹介します。

[北海道コナラ24林木遺伝資源保存林]

コナラの林木遺伝資源保存林では最も北に位置しています。コナラが本数で全体の48%、材積で90%を占める一斉二次林でミズナラが混交し、中下層にヤマモミジ、サワシバが混交しています。コナラの更新樹は群状に分布していますが、本数は多くありません。

所在	北海道新冠郡新冠町 北緯42°15' 東経142°11'	日高南部森林管理署122 ち林小班
地況	面積：10.0ha 標高：70m	温量指数 66 降水量 1,383mm/年
林況	立木 コナラ：平均胸高直径 30cm、平均樹高20m、420本・ 298m³/ha	稚幼樹 コナラ：140本/ha



写真 - 1 北海道コナラ24林木遺伝資源保存林

[長野クリ・コナラ・ケヤキ12林木遺伝資源保存林]

クリ、コナラがケヤキと混交し、中下層にはサンショウ、アブラチャンが見られます。コナラは本数で全体の40%、材積で50%を占め、クリは本数で5%、材積で13%を占めています。一部は過去に薪炭共用林として活用され、萌芽更新した二次林となっています。コナラの更新樹が多数見られました。

所在	長野県佐久市赤谷 北緯36°10' 東経138°32'	東信森林管理署15い林 小班
地況	面積：13.0ha 標高：1,060m	温量指数 71 降水量 783mm/年
林況	立木 コナラ：平均胸高直径 22cm、平均樹高16m、320本・ 89m³/ha、クリ：平均胸高直径 32cm、平均樹高17m、40本・ 23m³/ha	稚幼樹： コナラ：2,500本/ha



写真 - 2 長野クリ・コナラ・ケヤキ12林木遺伝資源保存林

[熊本スギ・コナラ・クヌギ・ウラジロガシ・クマシデ36林木遺伝資源保存林]

スギが主体の天然林で、コナラ、クヌギ、ウラジロガシ、クマシデが混交しています。コナラ、クヌギは本数で全体の1～2%、材積で1～5%を占めるにとどまりますが、クヌギが保存対象樹種になっている数少ない林木遺伝資源保存林の一つです。また、コナラ、クヌギの最も南に位置する林木遺伝資源保存林です。

所在	熊本県菊池郡大津町 北緯32°54' 東経130°56'	熊本森林管理署116い林 小班
地況	面積：77.6ha 標高：530m	温量指数 103 降水量 2,163783mm/年
林況	立木 コナラ：平均胸高直径 40cm、平均樹高14m、25本・ 18m³/ha、クヌギ：平均胸高 直径12cm、平均樹高8m、 40本・2m³/ha	稚幼樹： コナラ：2,500本/ha



写真 - 3 熊本スギ・コナラ・クヌギ・ウラジロガシ・クマシデ36林木遺伝資源保存林
(左：クヌギ、右：コナラ)